

道の駅22施設 年商10億円超

データで読む 地域再生

ドライバーの悪い場所「道の駅」が地域再生を担う拠点に進化している。全国の施設数は約1,200と20年間で2倍近くに増加。年間10億円以上を稼ぐ道の駅は20カ所を超える。新鮮な地元1次産品の販売だけでなく、加工から一貫して手掛けた

20年で倍増1200、福島5倍

独自商品で集客を惹く動きが広がる。高い集客力がある道の駅は周辺でのホテル建設など民間投資も誘引し始めた。（関連記事を地域経済面に）

道の駅は24時間無料で利用できるトイレや駐車場を備え、情報発信や地域連携の機能を持つことを要件に国が登録する。1993年に第1号が誕生。2021年6月時点で1,193施設と01年度から約550施設増えた。国土交通省の15年度の調査によると、全国の施設に年間延べ2億人が訪れ、売り上げの合計は約2,500億円に達する。

法政大学地域研究センターの山本祐子客員教授らが16年に全ての道の駅を対象に実施したアンケート調査（回答率99%）で

岐阜・美濃加茂 隣接地 大手がホテル

都道府県別の道の駅の施設数



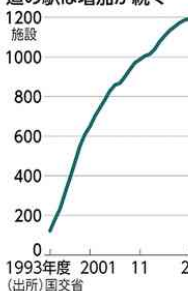
(注) 国土交通省の資料を基に日経作成。2021年6月時点

20年間で道の駅が増えた都道府県

順位	都道府県	施設数	増加率
1	福島県	35	400%
2	石川県	26	333%
3	大阪府	10	233%
3	沖縄県	10	233%
5	千葉県	29	190%
6	滋賀県	20	186%
7	鳥取県	17	183%
7	福岡県	17	183%
9	長崎県	11	175%
10	熊本県	35	169%

(注) 国土交通省の資料を基に日経作成。2001年度時点で施設数が0だった東京を除く

道の駅は増加が続く



道の駅「川場田園プラザ」には観光客を含め年間200万人が訪れる（群馬県川場村）

九州屈指の人気を誇る道の駅「むなかた」（福岡県宗像市）は人を集める「仕掛け作り」で工夫を凝らす。広大な敷地を生かしてキャンピングカーの試乗会からスポーツ大会まで幅広いイベントを開催。20年度だけで138件のイベントを催した。

道の駅は施設間の競争も年々激しさを増す。だが、地域の知恵を結集した「稼ぐ道の駅」には人口減に悩む地域にぎわいを取り戻すヒントが詰まっている。（上林由幸太、古田翔悟）

は、22施設が年間売り上げを10億円以上と回答。利用者「100万人以上」としたのは32施設に上った。

道の駅の施設数。21年6月時点、北海道が最多で129施設。岐阜、長野など面積が広いところも多い。一方、増加率（01年度比）は福島が20年間で5倍。石川、大阪、沖縄など観光政策に力を

入れる自治体が上位に並ぶ。人口約3100人の群馬県川場村にある道の駅「川場田園プラザ」。週末は自然を感じながら食事できるテラス席が観光客であふれる。夏のブルーベリーの無料摘み取りも人気で、新型コロナウイルス禍前の19年度に、来場者は200万人を突破。テーマパーク「よみうりランド」の相乗効果もある」と話す。

集客力を高める道の駅には大

手企業も注目。積水ハウスと采マリオート・インターナショナルは20年10月、岐阜県美濃加茂市の道の駅「みのかも」の隣接地にホテルを建設。岐阜を皮切りに、全国14カ所に相次いで道の駅隣接のホテルを開業した。23年秋までに29カ所に広がる計画だ。道の駅は単なる経路から観光目的のサートラップインリンクもてぎがある栃木県茂木町の道の駅「もてぎ」には町の人口の100倍を上回る年間150万人以上が訪れる。

運営する「もてぎプラザ」は地元産のユズやイチゴなどを全量買い取り、自ら仕上げた加工場でジャムやドレッシングなど40種類のオリジナル商品を製造・販売する。12年度に年間1700万円だった独自商品の売り上げは18年度に7500万円と4.4倍に急成長した。スイカなどを栽培する自社農園には、農作業を学びたいと県外から就業希望の若者がやってくるようになった。